花鳥餘情

十

冊谷博

第六八　東屋

第六九　浮舟
蜻蛉

第七十　手習
夢浮橋

酒井文庫

酒井文庫

僧正慈海

花鳥餘情第十八　宇治

東屋　宇治云

何と頼とはかなき春のなかばもすぎぬる三月の末
はるゝもしらぬまつ市心ちあるあるらやまに
さきそうらはて

筑紫にはあらぬ陸奥国にあるはまやの云い常陸帯
日のまゝむしろの迄なれてうる方将乃心ちとは
とはれぬの末をうけくるしみ

かみのなともとゝ日くさうらに分なとあまるはう
常陸帯日のゝ義人或戸出源の納言妻　賢
はなる妻　望　京殿迄義人左大将　置　中将
ゝ左大とくくうちゆるんねくくもれうちいも

木津勝四郎氏之蔵庫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

金之

庚申縁之人昨日有三戸乃
大宮亭庚申ゝ夜上告天帝記人品過
絶人生籍庚申ゝ夜不寝則不得上天許渾
詩年長為君惟中甲夜寒初共守庚申

内教坊町土御門北堀川西

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後といまうこの時うてゆ将いまうこの後
ゆうくらうくらくらくら

[illegible]
小しはかりの外余は仕意不帯しるとも余は将
帯剣と成る婦人仍宿侍し眠間於宿物持と
自余不能持と晴嶺日記馬以ものしるかれ
[illegible]れとあるいろのあるも
すてきこれもて
かきこれかれもて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとの中みをいとにゆを
いとをいとむしのゆをいとにゆを世ふる事のきてこそうん
あるほどをほのかにてつかをうしほ
をきてあるほどをてはなれぬものと思ふる邪
ほとをいはぬ法法すると事
ほゆをうのてをうをうを
四十月いてをうく
四月いむ月ゆ十月いかをゆ一月をて祭
あるをうをほ月をうく
不動をうをこうて　みけうれるんを
後のをうをいてて
不動をうをいうる志姫の相をあてうほ
かの祭をいをうをいをうをいをうを　方陸奥の事也

うつむきをいをうをいてて　移の鞍ををうほをを
かの天いををうを思をむを　をはをうをの事
身のををうをふれををうをふるをを　をまをすいを
弱法師
いをををををあてをい　あてをいをてくをを
かほををの物をみをあく　ををををの
うをををうをふをを事　ををいををを上鶴ををむをを
いををの作をむを法のを　作をををををねををふを
人ををみをれ作をををを
いををのをを同のをん　和名天似鼠黄色皮堤作表黒貂出東北夷和名布流木
和名鈔鼬鼠狀如鼠赤黄而大尾江東呼為鼬和名以太知
をいををををのを作をををを
いをを陸の水ををうを　をををいををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こゝゆへに小萩うへ給ふるねよりこの家にて
百姓の妻をとりあはせ給ふ
ひとりの女子をもうけ給ふ
母方のうへ下臈にて
あやまつてこの人の出生
みやつこの中事なり
こゝきこえけるとて
河海にやとり給ふ
と業房の義なり
やうとて
こはきこえけるうへ
らるゝほどに
ひかりかゝやく世中にあるねはとゝまらぬ
世中にあるねはとゝまらぬ
まうこゝて
うゑ
母の中將の
さうくしくもち
百姓のおいの
あやまきこゝ
のおうう
あこうしてつゝに
ひかりきは
柳下の紀信

ゆくすえ山伏をとりたてられ帝うの
苦行をはげみ給ひ円信をも禅師に補せられ
うの事をいとうやう
ねん
反撥
へわをもつ事をなげかせ給ふ事をなげかせ給ふ事をなげかせ給ふ

おかれぬ所にて　ひきてものうしろめたく
思ふものまゝに行てね所に
法師の流を達て車の心よりは
車の中に移る所とて
右衛門あり　車より出て女房と
かたらいかゝる車をかくれ
ん所を尋ぬるに
ら所遍
尋ぬる間　何ぞこの
屋ぬりにて　つまくみ
ちすがらあるこゝろ
の屋にて　ん
ほどもなく　法師
ほどもなく　いんに

法性寺　九條河原　負信公　拾芥抄

法性寺の
かたらひまゐらせ　一の
建立　法性寺の
ふなる　法性房の
行　車
車やの
とて
かゝるやみ
右衛門の
あり
行
まゐ
まゐ
ゐ

みちの志ゑうつきと
ちのあひだいはよりかのけとうきんとしてや
うつやまとしたゑもつきれくのこゑいるれば
ゆてこれてとい
やまとしたとわ歌の事こうきこ作者
ゑくゑいこれいまてこいとゑかいやん
事い思ようねんゑう
さ作いあつ事のゑもんと
と言ねい
よの何ゑ言ゑきあつきそさきうゑ作
ゑてゑこう 歌ゑ和の扇い作ゑすそしゑ
事と作後い思もゑて楽ゑし歌の事ゑと

めてゑ作と
さゑの名も貴ゑ作のせゑ作やれ月新
ゑれもさ本の事ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ
ゑちとゑゑゑ思ゑ作ゑ

花鳥餞情第廿九　宇治　浮舟　晴蛉

宇治　宇治七

春の名い新ゑゑゑ作ゑ作ゑ作ゑ作の廿三歳の春事ゑ
宮歌の作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ
墨ゑそゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ
かの人い色ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ作ゑ
ゑ和ゑゑゑ

又京の古ふるのきれはしもむすびて　これは二条の
中の君の方にまゐらせ給ふ　これを二条院の
宮のおはしまいたりしかば　これを二条院の
ようちのはしらにかけたる事へ
はしのもとのおきやうにかけり
河海抄云て文の事へ　と業平文に別へ
はしを文にかけるものなり文とうすきもの
つむ事へ嫁娶の儀書なりといふはしを
文こうはしらにかけり四記にみえたり
みすのきはにて文をつくあふ事くち
ぬまつとそうあるて文はしらにかけ
とかけり

このこうはしをつくりて文をこのうへに
金をていきをつくりて緑青をて文を
うへへ
海ふかう山たちそふふかくつわものを
ふるうて
木の枝よ山たち花造もみて印
つちとそうこつねうすり
まうすりねはあれとあらはすまの心よまのけとうの
海ふかねいまるみれわと枢極うたへうは
はとうたんい松
おきまへ人のうつむと　わとれ事せ
海ふかたちるつまてはいはいたるなるへの

枢　和名抄河東謂樹枝曰枢極和名末多布里

ゆきは作文のまへ大内記に事あり為義
うちのちきと名をあらためしより下まへうち
こうのうちゆはいそうとかねみはあむ
ちかまうい二条の天とうとかねとあや
しとおもいまうさう
大将々ゆあをいうにおとやてを
よういまのとゆ何なり
あやしきまてにあとあてあきんの為み
うちの白石と宇治へ行まてまはりて中
乃天ようちせやてまへ
石をおもはなとて　わるいねまとゆなり
かてわるせのいはは　ちうとにもうとわるは

ほうとと
京乃母とおるわるうるかみとうる
はおまてのうちい　うれ母の天乃石山へまい
うくはるうんとうるきてなり
こうはとれいときうまる物ゆく
たくさい母とれまへ高くあはうの屋へ
母とれおくくむうんとのまへなり
石をうてうとれまとはやてまつをうるうん
まはは姫天のめとれいるうへ
きみくき物あるはしとあるいはるも
二条院みくみるゆ
人とのうう

かなしきことなりとおもひて　六月十九日
ゆくすゑのたのもしきことなり
あるゑみはゆゑに思ひまうけぬ事かなしきことは
この海にいるゑは大将とて
なにとなくうつくしくあいあむ
さまくいもはらうとなる侍之中の若と
いはれの家おとれいかゝるかいとんん
と白京之ゆいのまうり
中車いたりけてそあむと　毋とおもふ
ゆむゝの車といまり
ゆきはついはなし　大蔵大輔仲信ゆゑの家
人ゆうみちまゝさうとまり

ゑにはゆゑにゆきて　時方ゆゑの家四之出雲掃
ゆとゆんゝ
右をいてこれとゆゑ
ゆゑゆゑ人いた内記とゆゑ
ゆいてゆゑゆゑゆゑ人ゆゑゆゑゆゑ　ゆゑは
ゆゑの事
時のまもなくゆゑ
ゆゑはゆゑゆゑの事と
和あむゆまゆみの侍ゆゑ
これゆゑゆゑゆゑの侍
月ゆくあゑはゆむゆゑ人ゆゑ　毋とおもふ
のむゆゑ

このたびおりたちといそぎて
ゐるのおてまきといふんとそれに
かりの人へたれてまきあるまき絵
さをえいとあるとり
よへうきれをおく　月のさとりのまへ
たれいなのきこはさうよにるひるあるまくい
云云るあるへをいはまきへとそひるく
はまいのとへ
ようりはようなるもしれて　ひとりうちかるいの
中をとりあり
つるるーにあるさはるを中るまるるはるてんん
うを後うての事へ

心とはるけさはるの命のこさあるあるを思ふは
人の心をきあるはまいはちるはるれる
ようう事へはるて　はるるはるれて
あるへくきるはるとようるはるとるはるまのとい
て右近うさうへ
はるるあるはるるの人へとまるて行て
きるうに一番見廣の人へとるるやうにあるの
人へきんるるとるへ
へいるるやうはるるるるとるあれい
我分のるるとに言へて人へのうへとるまへうる
の我とるるるるはるるるるるるるへ
かるきるるるるるるる

官職秘抄大内記多大業人或有文章生任之物
大業之中撰人稱之於大輔者雖昇参議散三位不去之

[illegible]

あるらねと　あふ人見てあるかに心あきまや
この文をいとやんとなくく　うらぶの事
かのうんてうあれ一事にの給ひてねて
うらぶのむてきとあやまやとうすれとも
うらぶ文の給ふうてきてひ事といとや
いてくうしたるめらはうらうこのわ　時方と
のうと
本情のことにむかいあれとて　恋とはいてそん
この中そうとうあるう
いてうをうとうてて中ゆうの方とけうをの
うふときてうて給てを文のうあるうと
こきねうとうとのうとあ法師のうねと

裙

伊勢もあやまきまきうとと
うしらうにうをうと裙のをうれ文とうう給く
とうつうやてうにうをうんの事
こあ文をうれとうてまたうう　女一文の市事や
うやとくもうう給　うう文の文とうねと也
かのうんのあるむ事うう　ううけうれうう事れ
ううんにの中の文れ市事
まうあるうやきうう給文はうやうれう
うう事れうれねを升うは海うあいはうう文を文あん
たやあうよの給うう給人うう八をうけ山うあるとも
うれとを自文の市事
いうあ市んううとあるとうと山うあうるうや

裙

いねも

[illegible]と物[illegible]事あるいて
山[illegible]てを[illegible]とあるとうれしさ[illegible]
あり明の月と思ひなるも　孫　[illegible]事
さいはひ[illegible]ものわいさ[illegible]
はてはちいり伊

日本記[illegible]山寺四[illegible]堅花道河内設[illegible]　菟
ちやんちはりさ[illegible]
[illegible]川[illegible]
思ひかるやむ[illegible]
[illegible]
人[illegible]

[illegible]と[illegible]
[illegible]日きあいら[illegible]
[illegible]
[illegible]

おとろきて古ひもさしの
玉衣の紐とくもあらで体長一のつかさと凡
ゆくへいもはなさしまつる
むしきはのうらみくさくさくさくさくさ
くさくさくさくさくさくさくさくさくさ
たうあうや
むしとおりいたるみをえんおくもさるをかなし
なけきす
白髮のむし中衣の古めかしかりけり
涙ゆかしとをしかりけり
思ふかの女めのことをいつまでもはかなくなりぬ
人のくるいなくもつかうまつりかなしみ
大内のむしくるくるとそちやくるとよりいるる事
みるこのうらをかりとりてつかうまつる
内舎人帯剣具兵仗武弟貴兼坂東掾也
むしにもさうすうのおうさんはいたまたるかる
ろうしくたるとそ身とそもあるかれ
万葉奏分十六曰昔有有娘子字曰櫻児迩子時有二
壮士共娉言此娘而指生格競貪死相競於是娘子歎息
曰從古来今未聞未見一女之身往通二門矣方
今壮士意有難和平不如妾死相害永息爭
尋入林中懸樹縊死其兩壮士不敢哀慟血泣連襟

答陳心緒作新二首

[illegible]

或曰昔有三男同聘一女也婢娘子嘆息曰一女身滅
如露之雖志難平如石遂彷徨池上耳洗沒水
底於昨特其壯士等不勝哀頽惶池上
三首 婢娘子曰 復悅髮夢兒也 有三新略
さはりめてこそ[illegible]
いさ[illegible]
京より[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
不用[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]れとあるをてこれ
[illegible]れと用ゐ――但うつかの和歌の
[illegible]の大将の御子の中納言の行幸に
[illegible]の人をかりきねとてもしたりとて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

なれて
伊吉の物語る姫元は母の
ものとなりえんまあり
ものくうもていまの事とおもふや
京うまあるはしのうつを　母元は伊吉なれ
きうりてんくうり
物しい物語るうるうて　物しい得之音無
ようのうもとをあうくてんく石をいくくあく
無元のうくのもの事をのちうるおいでん事と思い
うとは世乃事ゆ伝まとて石物ようるつを
うは事のとはうあるうるつを
世はうぶと元ゆはうくよ
きいうきゆよせんくとをいれうは
わとねうんとやもはうあきいうきゆていうきゆん
元をいてきいうねうきあるうちも
無元はうはいうことをうて元もうん
うくのようにうもはうとはうとはうくを使うくうくを
とをうはうきいうてきうくやゆはうみうに
元のうもはうはうくうくねうくはもきうねうくの
あうものとはうを
ひとあいてんくはうとはいきこうはうく
白元おうて物をもうんはうまうをもうのを
伊吉うはあいはうて行事上のまうんうり

人のいろをかむ人へとを帝撰もとりのこ
桃天帝天の人間とつるさとる天之帝天の物利天
のうえ或物る宇治大納言物語に津藤貴有り
又善相のうせるはいつるこるる事のおれ
ものうえ河はるい東まる高度原相魂河と法
きは事といつるはきもちの何てふとす
別る帝天の人の元せるはもこは年得あ
ものこるてはるのこるすく
人をまれおみもまれ
人もあれおみとあきといつる姫恋のめは
たつる人をは生てこそいつる何すり
ふね事とをまはとあやしや思く

時方ものこるはいとおそてまつむといは
こおの人はなのかとこに人ねとさけくこれと
ふね事のまはとはいすり
おみはくこるはるせるこるとんはきもてとよ
ろけまきこるすと
しるきこれあはこるこそのち物事とはとむ
事すり
おるやこはけん
伊勢物語の鬼こやこちまこはいとはり川の
おと国往の大納言なるこの二条后と号おこそて
まはる事とおみとはいつる伊勢物語の鬼と
人こるとこて口ものこれ鬼まおあはる人は語み

小松の帝の時仁和三年八月武蔵の国に
有鬼食人是則大怪(けし)なり百帝崩御是
徴(ちょう)なるべしこれい鬼の人をくらふたること
きつねやたぬきのやうにていわん
説文云狐妖獸(ようじゅう)鬼乘(じょう)来云々寛平年中倫中
国賀陽郡民藤狐に云て十三百余の下ふ国
事なり
そは云はかりなりと思きゆゑわたりみ
女二人の中方なる所の中あれとつまの人やう將(しょう)なの
むすめをとりてあるとき
ちらんと思ふこと
あるなりねんなりてそなりけり事もなき所
こうあるなる事
大まうにおりなりと申きこえあるを
石をたまへるなるの
りとあやしくまいりさるなりある事ども所
入棺拾骨(こつ)なりの事
かへおこなりへそなりけりみかなん
又母のまうまうおやあるへ家人のなりしこと
りあへとめられ事とすると御事へ公にまうす
きいりいるなりさはあわへます事
なるほのきおくまくれ分ふ所かたりいる
さはつりりなりへます事
かの変なるまして二三ハあとあるなりなり

こまはうの文のさまとうけきゝまゐらせ
うのはるかの文ときこえもうしはるゝれと
けうこうの殿の文系図ありきりつかめ門
の清まとれいうう大殿のとちまあらて拝服
きのまうり
毎秋てしく心よりはと
こうかいとしたもうこうあくみめさ伝之
はうやうこれ事とのこ拝おすまうう　とまうし
うの心う思ふ事
こう云いうるさいわとれまうと　とまう家
文のさの事
まはとちいあとれまう

白文の清心ゆまはとらこはうんとまれはる
大将とうきみの元はうんとはのうまり
いまは中くとらうまのうあて仰り
信こうくれい身ゆくうくうくんみもさいくよ
うあとね事とのこ
いうくをあうこうはるか
これとうの我こにあうはてみうの文
西事とのこ事
とのはくくとてとこ
とあらあおいへいあうあ
のちのとは事とうとはみくいの毎あ
まうとりこはうんも元

三十ケ日の程よりはつる事ハ
いきとしてあらんことを　ひとゆるされん
きこのあるよりてよわりのつゆ日をうきれい
二月廿九日の夕方の時
三のい殿やそのあんはるのあきてのたきぶるかよつ
（稚児）きそふしてきあ新きん（ろうそくん）
ふとくきこうぶつとそきいのねぶ事のさぶも
云の方ふるあてらんきこうぶされ事の
わ日きとの行ふるのり
きいのくめてたをとむくるつをを　夢
まなとと
きつまきつくりこむ　きこねるれ

ふつねぶやうこと行ふ
ある大侍従あぶをきぶ事れ紙んとのこ迫けぶ
ふれぶやうこと行ふ
あこうのあ行きこうきこ行ふ
正月ようつえうらあてきこ中者の若人宇治より
そまぶをを行ふ
行ふ
ひとふとつけこめるふ
ふるふ
行きのうこれうぶをに
うきこうぶを月八幡
うぶ海ふうきこ

あるべきなり

はるばるれいえんよりはじめ

ゆきかへりもえんよりはじめ

里のちかきをいとんくうかんくうかん　えんを

さとれ名のうあるきまんを

よりたちんえんのはいちのめをきまとふるべく

物屏帯四位五位の人帝より用ゐる高帳者は

為屏帯（りょうたい）讃（ぎょう）岐国は物屏とさすを

六十位のあせをとれば月をかるべきなり

三代実録元貞観十六年七月廿日辛未延喜

十位を紫宸殿に於て三日轉大般若経しかる六十

位とやすべき例なり　当大般若経物語のあせ

又中陰の仏事まで六十位位せ仏事宣

例七位もと五十位の中まあるべきを

七ちうのまんの事をせきを行ひ

七位のまんは位食の事七位は食は宇の日と

行ひ事　僧師僧師院頂こ礼唄散花達

ちまは七位といふ

ちうの人のはんのうちうは

白衣とうの大将とふ

わたれはとね事

あるべき心はなくさむとく

きさいの衣のはたの

はつ仏事のはは物帳（はた）ものの

これは白衣とう

一この文ちん申つるあり候ものを
自文の古こけこと申ること
小宇わの文と申こんかこと
ゐ所の思ひくかるよの宇わも一ふの文の
やはらいまこと
この文もこんていこと物申候く
ゐわこ若もこれこと申ること候ふ申こ
と孫まんこゐんさあこゐねと孫
こ申ふくいこ申ふけまゐくこの事
申人に候こんてもこと物すよん有々
まあんこゐこと小宇わのゐふ文よんに候ます
と人まこれこゐとゐ思ふこうま身の

文の事は思ふこのこと
わ物ゐこゐ申ふんこと
ゐこうゐ自の古事とけまのこと
小宇わのきこ候こと
このこゐこいあこれゐこ
小宇相のゐふいのこと文とこゐ申こと
みこんこゐこはんまきこいてもあこか
ゐこんこはこゐ自の文といふこゐ
文くかこそこちんこゐわこ我もおいて申物を
そこちんこは文は候ふいこゐ新ゐ
ら申に我ものこと文こゐわこれこゐ
人これねこちに候こと
みを候こと

[illegible]
[illegible]
[illegible]

いとへもてなをすしるかりとへんてはるへの
ゆのきはるつるのゆまるとうしくをて
はもせうれいさやあねようてはぐつを
あまとねとやとはなて
はるくあるつるとんるるのはるる
こまはるつるのはあつるのあこるのはまへ
大蔵ようはりのしくへのはうねいくさいれと
一ふのるつきのつはしくとまねるゆて
るはくるあるゆ　　傍倍側へはくるねする
とはるる
あるはんあへるへんとく
あへるへ敵はるへのるねはてるはるしく

なるもあへてきるるはまるへはかねるる
はるるはをきはるはるるへるれるれ
るまを一ふのるれはさてはいるる
はるくるのれはさるるはは
はくはれるるはるるるるるるる
はるてはるるるてまはるるる
るるも小字桐の字るるると一ふれるるまて
まはるるまるるるはるるるるる
まいのるるるるるるる　白字の事へ
丁るるねくはるるはるるるるるるるる
丁るはるのはるるるるるるるるるる
こまやるるるはとはるるる毛田るはるる

心やすく白玄に出る○行よりはなし
ゐてとをくおもてをはなり　白玄の物語のこと
兼房　てあるこゝろいとゝ我もわすれぬ
一ぶの玄はいかゝ人はかたとも
玄に言てはきこゝろ中
いつもの物語　ん有り方将をちくま
このさとる物のみを
如三玄の方事ゝよれ何ゝ方玄乃はまくゝ
ゝゝきこゝんとあり
結　結のわけものせをはなるん　終をとる也
限きこゝろ所ゝ有ふとおわけはなり
一ぶの玄とゝるの思けてきいるのみゝはなり

行ゝわゝ
ゆとゝ東のゝゝ人ゝをあゝん　小字　わの玄物ゝ
ゝの玄ゝちゝゝとゝみゝり話　ゝ乃玄乃はなり
ゝきんゝちゝり
ゝの玄にあるゝわゝ　一ぶ玄は
中玄のはゝゝ
物ゝゝゝわゝきれとこの玄ゝはゝゝ
中玄とゝるゝ侍とゝ乃玄の事ゝ
人ゝゝに心ゝゝはゝくゝゝ○ゝゝにゝゝゝ
ゝやとゝゝいとゝゝゝけ　ゝくゝゝゝゝゝゝ思く
白玄の下事ゝゝゝは　ゝけゝくゝゝ　ゝゝ
小字　ゝあ玄の物ゝんゝくゝたゝゝ話ゝゝと

言をわりなくせられて　この家い中家とも
家の御こゝろのきこえたるつゆ
ものゝ家の小の方中の家ちやうとうきみの
家の事へ

といふをたゝいをいとくなるい　うゑみの家ゝ紀
母ともゝ母人のいふうり
家もいてあるゝ御ことあるて　中家とも
さゝにうゑ事ゝのまゝ移ふるといとせよ
中家の方何ゝ人ゝ　あるまゝやうとせて行ゝ
やうゝゝ大将ゝとゝ家の女一の家思うけうゝ
ゝゝ方ゝの御母女一ゝ家ゝ思うけてまゝ
ゝゝくいつゝ

むゝ人ゝ物行まゝうゝ　あけまゝの家何ゝ
ゝゝ御ゝゝうせみ人ゝの　ゝゝうい御事ゝ
きゝゝの家ゝゝいむとゝ　ゝん物むゝれい
御ゝゝ中家ゝゝいゝゝ　ゝんとゝ御ゝ
このまゝうせゝゝゝゝの　ゝゝの家ゝ
ゝゝの古母へ　ゝゝの家ゝ
無ゝの家ゝゝ家ゝうゝや　ゝゝまゝ人ゝゝ
ゝまゝゝ御ゝゝん
家の家ゝゝゝ御ゝの家ゝ
ゝゝかゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝ人ゝ今日ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かの古方の中將乃元とときこゑ　一説云如茶

[illegible]

いてこれわらみもやつてむ人の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

論語之難字有恒実矣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まことにおちられと
ことを極位高の心とをもうくけたまはる所
なのゆへ法華経に毎日おちみ
あるなり
我とて法をとくとは法華経ばかりの
入道殿いはく法の法
法のことく
法華経ばかりの中
にてなくてもあらばこそ
世の法世法高とをもくてもあらばこそ
いかうばかりのことの
みこのむ心也法華
経ばかりの中にまことく
中ちくみなくきたるもふるはんまと
有法の御ん心けいをきくれをきふるまふん
と事あるくまの法とく
ちとうちのとあらられ仏と
すかとちとの問とうてとをといはんなり
み心の中いとをふるをいとね極とうとうと
ものとうとみや
天みをいつくとさうらくう
法の天ものさ法華とるいくく
ちくもしきらく
ちきるとうとをいきとうとい
きるるの法とうの事と

かくばかり

あさくの人のわたくしのうちなる色と　ものの道理

きくのみとおもうてあとひきゆくまれた

古道は世俗の心よりはるかとうとき　ものと

ときみてもうてなのあるこれをきこえて

ふんといまうこそこうこと

和をしりのことあるあれ

のうすちいまやうに多くおもくくしてて

和をしりのとに昔こそれねんといてうて

なとうの問はれまつまきまつまきの

すちとあはるこれこの言はるる

多くてのうはすみこれ人とやこと

和をしりのことに昔こそれねんといてうて

なとうの問はれまつまきまつまきの

すちとあはるこれこの言はるる

多くてのうはすみこれ人とやこと

この人のうのまいのこれ沛心こうくまはるやと

ものうこそ世の事

あやうきもの事いはひひとれはあらうり

こそうの宇治のうこそこの言はせるの

中ホもうのてうるややうろくやをいうは

保永の元乃事

行とみくくはこれをこれひ事きこうけ

あこれもうとこいこれるあるこきこもあるせこれた

行とみくなこれむこうきこれるみのいとを知れ分とこうく

と業こけうこ二の義あり一に陽橋とこまう陽

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物ゝ寺部ありてこれ
信部の石碑のこれ
部をこれ如毎ゝ
物ゝ寺ぶつ
てまつりてこれ
こゝけこゝ
家孔雀金剛山百度
ゝ部ふゝりて
物ゝあり

改朱雀院の宗ゝ
孝ゝ紀元
宇治院、拾遺山野

ぶつ
ぶつ
ぶつ

いふとうわくすんちうすんぼとうつるべし
きぼうの人は角んきすると
通の中は邪境道とて
通新道邪道をいふ差別ありきつるねず
きの人は変ずるを妖
あるは者有る人すなわち
いふなり又就をもて
とは新道とは
なりの周行すなわち就や
なるいふ邪を得人きふして果報の道て
いふなり聲聞菩薩佛をもて道とは邪道
とはこれいはゆる
邪なり
邪変化あるべし

に為す菩薩の道は佛なる道なるべし
又仏有るを　出廚を有は人食わと雨すを有り
ゐれなる稼すなわち
あるさるのこゝろのみや
大木の下のみ仏なるものみなつきう
むしあるを人間をもてもうんわみや
米の盤とて稽あるうあり文殊楊の目の
見はるとうきう山法師なるみもてきつきる
事といふなり
角もくいつるなる
作くきとてうけきんと
なるを邪なるつるせんれ　つるに領之

人はかりこそれても
ここさ内の主人
めめを仕く　みくしく
さくら内ゝもてかりの
尼天これまていはる
きくくの事をなん
傳部は段
うちきゝ内ゝとゝ
されい妹の尼天は段
角ゝ
傳部の妹い石丸
しゝ女ゝ

人ゝ内ゝこれゝ
横天ゝ
ゝ
ゝ

行ずるに京よりて行ずるに我あり
我ありとけいうる佛へ信邪といふ所を出るより
のちこれ我ありとを京へ出るんとてあるはなし
まていたりみるくに行ずるに
くゝのむてこれをもつてをもひ出る所をも
法華經隨喜功德品之面目悉端嚴為人所喜見を
なりみるをきるんとをこしてこれをみるにいまの行め
多種なる事いはんてこれをのるの行い
法華經之佛種信緣記之 今棄一切忘諸法の
種子之外八河物所識之倉藏をり深淨乃
緣をきるこをいて取行して仏とを云をもをる
物と多とへいまは本をして行の生地面義の緣をとして

て生長をるをとを緣をけまは
取行せて菩薩の慈悲まを面をもいふもるの
人の宿因をけまをいをはるをいまるの緣
とをり行へくを行をんをを小野の
所をを屋なをへます因あるみをてをる行無
無ををををををの法師をを緣と緣とをいをを
唯識論云行無慙不顧自法慙推賢善為性能
障礙慙生長惡行為業
女のををつをまてまをををを次
法花經安樂行品之又菩薩摩訶薩不應於女
人與取能生欲想相而為說法

若為女人説法不必跡上述笑不現身膳乃至為法猶不
親近況復餘変
ようにぬんのおもとしるくいたす　作り付あい
これは大法ならば間
うるはなのあまるさまに　行ひ有る
宮仕の傳授塞の家とてうるはしくいらーるしく
さはあきまれの大若の事
きこえれ心ちいさとやうあみ　うき身の苦とてうる
いやうみ人のうはは身にて
宮仕そこ人のうは
の苦のうくちはしいりとをかきとうは身
いとしとおもとおけうて　作る


うはは苦の宮仕うて身とるけんとも事
とおもてしうなり
つるようくいつとをはうれと　業苦の身
とるこんわも事
うちうくわるこうるは　温氣わるけの事
一とやうはくれはくるおるる有
業平中おうこうはなくるある
の間はくるいは老人のこ海の藻とはく孫
うるあるうるはうるはうるはなる
はるるとはうり
あるるに思出てこてい
これうはは苦は苦の尼苦はうるはは間

あるや水とうんたきうりん竹うりのおちかたもと
の何ゝいまそんのあるくれるとみるん
やうとうけるあるもそくやしあるといいやるこ
このあるもあてなるん　信都の毎志とこ
むとめのあるえいうんこちやくれるこて
小野尼いわ毛信都ほ宝とうもうこの
うれるの右ゝ
むるの山ゝとうい水のことをあるやかり
宇治川とあるのきのことをいうりとのは
ちとかるの歌とるこーあるやる和の毛ん
尼ゝあるちれまるゝ　常陸国ゝれまや
ゝ毛の山ゝとうい　ゝたうの

まにあるまりるんの心とやはやる
ゆくさまさまふるるあるあるいるてあること
くうるるあるまるこはまの
むるみ都るるるるいとして都るる国とう
まるるる

中将も小侍従などめしてこれにうたせ給ふ

と奏すと

[illegible]

[illegible]

我もとこそいはるるさはるさはるくらくらち

[illegible]

てこそこそこそ

[illegible]

あるやまこそはいとうらはいふや

[illegible]

橋は名に面白萩芳[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世にもきこゆる句とおぼ[illegible]わすれ人とうた[illegible]
あるときこそうたいなれ[illegible]
[illegible]

[illegible]

万葉集にあるこの情景新鮮[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

## 傳都の歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

けい紙の書れたる中ゆゑ重宝和歌
たるを門弟喝采するに拾遺三十
紙の書風を真似て書たるに
よくふくこころ行ひ
中初て文のとゝのふる
たゝれ来るとゝろ
前の来る所を見て秋の夕暮さびしき
しを来けりいろ行方の
ゝ家に行てすゝく
ふるとゝもあいきこゝろ
二ツとれ枝い白ゝ
やゝもあいみんとて

名ゝ
これ事ゝいあてゝ
ゝ枝のゝ
百姓の名ゝ
の事と
ゝれとゝ
ひめ
ゝんゝ
きゝ
備前藩橋良利肥前国藩郡大村人
名寛蓮寺浄土法師幸法師
ゝ
碁の

十三年五月三百碁奉勅作碁或勸
抱朴子曰圍碁者世謂之碁所始故數多作
馬綏明有碁勢碁品或書曰唐堯造碁教
其子丹朱一說曰不無碁出於戰國之時
信都芳[illegible]
信都芳[illegible]
[illegible]
[illegible]

冥途にて見なれし人々にあきんまへ
小海の人々と共にみちを行くに
白髪の老ひとりうしろ姿にて行く人を
はるかにうしろ姿にて行く人を
こゝはいかなる所にて侍るぞ
鳥のなくこゑきゝていとゝ行くたのもしき人い
行基菩薩の御ことなるべけれ共毎日
七葉寺の御ふるまひ
なるべきことなれ
まゐるかしらとを　こゝのきとなる
こゝにて和尚とおもふもさすがなり
鳳凰のみちをいとなるべし　圓頂とは法師といふ

くにけり　こゝにて　おもふて　人々
みなねたるなり
四つの中にて　けしきもいとあはれ
新女成佛の事
こゝにおはしましたる人々
宇治の宮
ゆゑあるこゝにて　ゆゑあり
ゆゑあるこゝにて　ゆゑあり
ゆゑなる人々
かゝはる女房のおもひ
さけたるこゝの
この御ことゝ
中納言

らねへとうたうたふ事と中ゐあやまりと思
ひとちのかのふことをきくとなきやとよいいも
うとなくし
常陸のかたからうたふ毎に花の毎にうたれて紀伊
ち妹なくし
あやしとてつうのねとうこみて三てうをうたふ
やうのねとうに何とはまきみもあまきあたま
なをつうのねにてあやしきなをのねといふ心
拍
拍のなをとうとをなをとをいふ
石のねのいねねのうたへ
拍 拍
石ねのねいねとうとよねとうとうたうたうたうの
考ることは考へあるねの事に何つらい也

伊勢のうたうたうたうたうたうたうたうたうたうて
きねりとへのみやこをひねる事
むかしの人あまりまうなをいいて行
石ねのうたうむとあの事と思ひ都行
ふんねてまていひとうとうねまいます
うなをの毎の考の毎の事
石ねこをとそのうたうたうたうたうたうたう
うたうたの考の一周春のうたいとうたうの事
かのひとちとことをかうふうしうたう
元服うたいてうたうたうたうたうたう
うたうのさうやと
さうい雪
ふとまういてとまきの事てあやと

けんとは自分をわりあて出給へ人なる仏を
やみはらく行くち侍るとうとうとう

亭子院御

けさのあさみどりの色にかすみたる
のどかなるはるのはじめにうぐひす
ねをなきてこの世の中にあるものの
のどかにうらやましくもあるかな

相模

ながらへばまたこのごろやかくばかり
ものおもふ春の長雨をかな

ちはやふる神のいがきにはつ
ねにもかかるためしなきかな

山のゆきとけ水にまさるとしの
ゆくへをたれかはるかしるべき

月の八月山の中に童子てらの種仏供養
しけるまきの習の巻をよみてこころ
をかしかりけること　　平忠盛
むかしはかりのこころのうちにかくれ
現ぬ山作所にてかりけるかりの人の
法をとりて赤眉の童子打ちける事と行海
ふの法師ひとりもいとおそろしかりけ
ものをとりてかりの人のたちをとりて
角はしのせたりけるを入棺してかなをみ
をとりてこれをとりてこれをとりてこれ
をみてこれをとりてこれをとりてこれ
をみてこれをとりてこれをとりてこれ
をみ

天狗とて山に星とて名を付てもちみる前
いて魔の類ひ山ひ
苔の山ひてあるまゝ
苔と形をもり
何俳諧の意とわ仰ひて極く楽さに
多よの形狗にて苔ある家の形をなる人
むそいの山をとなる俳人の形の山をもり家
といんもをもい仰ひてさらみや
いかを山ぶるーすを山人のこゝを
うきの家の高ひ山ひ
まを狗ひてをとあるくにきをあり
をを唯いらしまるを俳ひてよ

ををゆあるくにひて
きにてをひとをひーをらんをを俳さを
うを月の高の高の高をうを仰を俳
ひをうい事ををうを仰ひ俳
けをうの人をあひ事あを
ををうい月俳をうあをうの人をを
きを俳ます事を仰ををこを市ひを
わをを俳
ひをみきをんをあをを俳をを俳を
これをいをの文の高を
高をまをの人ひをを俳をを
俳をは山をを俳の山をの人を仰俳の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

恩應仁[illegible]乱初遁上都暫寓九條[illegible]防国
敦[illegible]稚童部南京終[illegible]十[illegible]池令来已
暦五[illegible]雲宣感及達[illegible]遠倒[illegible]餘功丈
[illegible]脈志白楽天世信文字[illegible]遇琉業式部源
氏物語[illegible]詞篇[illegible]通玉敷[illegible]命脈句[illegible]貴
和[illegible]胥髓於是為觀覧知日新月盛及
尋繹悟今是昨非遂抱河海[illegible]流書真
源[illegible]庵敵作花鳥[illegible]使写符情於毫端也
可文明四年竜集壬辰除月上澣　桃華居
士七十一歳誌写

俗名增島彦弔道室秀夏信